

栃木県栃木市泉町

150年を翔ける

かんこどり  
諫鼓鶏

を  
次世代へ



目標金額 300 万円 2026年 7月 1 日(水) ~ 8月28 日(金)23時まで

／泉町自治会がクラウドファンディング挑戦中／

## とちぎ秋まつりを翔ける泉町の「諫鼓鶏」 150年の誇りを次世代へ

※本プロジェクトはAll or nothingのため、募集終了日までに目標金額に到達しなかった場合、いただいたご支援は返金いたします。

栃木市泉町は、「小江戸とちぎ」の一角にあります。「日光例幣使街道」にも面し、見世蔵や複数の土蔵が建ち並び、宿場町だった(旧)栃木町の庶民の日常生活を支える商店街として大いに賑わいを見せていた場所です。

「とちぎ秋まつり」は、明治7年の「神武祭典」に、泉町の「諫鼓鶏(かんこどり)」と倭町の「静御前」が出御したことが起源とされています。その後山車の数も増え、現在も栃木市の大きな行事として、2年に一度、11月に開催されています。

江戸時代に行われていた『天下祭り』において、大坂夏の陣の後、治世の安寧を望んだ將軍家の意向により、天下太平の象徴とされる「諫鼓鶏」を一番山車とするように定められたといわれています。

泉町の「諫鼓鶏」は、その『天下祭り』における格式の高い「江戸型人形山車」にならい、その伝統を今に伝える極めて貴重な歴史遺産であり、150年以上にわたり大切に守り繋いできた私達の誇りとなっています。

しかし、この「諫鼓鶏」は、製作から長い年月が経ち、全体的な形を留めてはいますが、劣化が進み、部分的には形を留めていない箇所も見られるようになりました。

そこで、私たちは、大切な歴史遺産の復元を目指し、専門家の協力を得て、製作当初に近い素材を使うなどして抜本的な修復を行う2年計画のプロジェクトを立ち上げました。

この挑戦を通じて多くの方に「諫鼓鶏」の意義と歴史的価値を知っていただき、私たち地域の繋がりの象徴を将来に継承するため、また「とちぎ秋まつり」を通じてたくさんの方が栃木市を訪れてくださることを願いつつ復元プロジェクトを推進いたします。

祭りの感動を未来に繋ぎ、誇りある伝統を子供たちへと引き継ぐため、皆様の温かいご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

インターネット上でのお手続きが難しい場合は、泉町諫鼓鶏修復実行委員会まで直接ご連絡ください。  
EMAIL: izumi.kankodori@gmail.com

<https://readyfor.jp/projects/izumi-kanko>

READYFOR

諫鼓鶏 レディフォー

